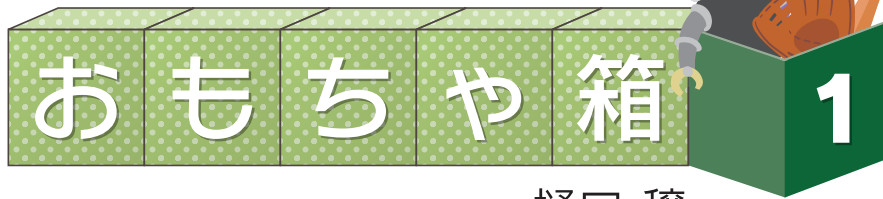


図書館長の



樋口 穰

みなさんこんにちは。図書館長の樋口 穰です。

いきなりですが右ページの写真を一見して、これが何処かわかる人は京都暮らしの長い人でしょうね。明治から大正へと時代が変わる頃に発行された手彩色写真絵葉書です。写真にも記されるとおり、京都八坂神社の正面を撮影したものです。八坂神社の正面というと、東大路に面し、立派な石段を伴う西の楼門（国指定重要文化財）だと思っている人は意外に多いのですが、実は南の入口こそ正面なのです。この石鳥居も重要文化財に指定されています。現存の石造明神鳥居の建立は正保三年（1646）ですが、寛文二年五月朔日（1662.6.16）に2つの地震がほぼ同時に発生した通称“寛文近江・若狭地震”（推定M7.5）で倒壊しました。この時は若狭、近江北部、京都での震度は6.5と推定され、畿内北部一帯は甚大な被害をこうむりました。石鳥居はその4年後の寛文六年に補修復元され、今日にわたるものです。

鳥居前の参道は未舗装の地道。和装の女性たちは当時流行りの洋傘を日傘にしています。写真に彩色した人も同時代の人ですから、きっとこんな色の傘があったのでしょう。袴姿の女性は女学生でしょうか。もしかすると京都女子学園の前身、京都高等女学院の生徒だったかも知れません。女学院が発祥の地、堀川五条西から現在地に移転したのは大正三年（1914）のこと。絵葉書の宛名面の形式一郵便法によって形式が変わるので時期判定の目安になります—

と合わせてみると、この写真が撮影されたのは大正三～六年の間のいつか、ということになるのかなあ、などと想像してしまいます。鳥居奥の南楼門前には客待ちの人力車が待機。手前商店の前には大八車が何台か路駐していますね。今なら差し詰め、タクシーとトラック、といったところでしょうか。人力車から右に二人目にはこれまた当時流行の“とんび”（インバネスコート）をまとった男性の姿も見えます。そして、こどもたち。

この鳥居をくぐり、南楼門を抜けると舞殿、本殿が正面に見えます。舞殿から左に向かう径をたどると、やがて西の楼門にたどり着きます。幅のある立派な石段を伴う堂々たる姿は、まるでこちらが正面だと言わんばかりです。石段を降りたところは東大路通、石段の下はそのまま“石段下”または“祇園石段下”などと呼ばれます。当初の楼門は応仁元年（1467）に勃発した応仁の乱で焼け落ち、乱が鎮まって少し後の明応六年（1497）に再建されました。その時以来屋根は檜皮葺きだったのですが、永禄年間（1558-1570）に耐火性の高い瓦葺きに改装されたようです。そして、南の楼門が当初の位置から動いていないのにたいし、西の楼門はあるとき、動いた（!）のです。もちろん、地震や超常現象のせいではありません。その話は図書館ホームページ掲載記事で。

ところで、そもそも樋口はなんでこんな話を書いているのか、そろそろ疑問が湧いてきているかも知れませんね。



実は、京都外国語大学の正門が面している四条通は、この、石段下をスタート地点として西へと延びているのです。新型コロナウイルスの流行で自由気ままな外出も自粛を余儀なくされている今こそ、古い写真絵葉書などを手掛かりに、四条通を東のスタート石段下から、西のゴール地点までたどり、関連する歴史も織り交ぜながら、おもちゃ箱をひっくり返したような話を紹介していこうという、要するに勢いで書き始めてしまいました。紹介する場所はいずれも、みなさんが実際に çıkかけて確認できるところばかりです。古い絵葉書写真も次々紹介しますから、現状と比較されても面白いかも知れません。

さて、では四条通の東の“どんつき”（つきあたり）が石段下（祇園四条）だとして西はどこまでなのでしょうね。『京都の大路小路』という本の「四条通」の項によると「四条通 平安京の四条大路にあたる。東は東大路通から西は長福寺の西に至る。全長約七キ口。西へ松尾橋の西までも四条通と言われる」と紹介されます。天神川通を挟んで京都外国語大学の西には三菱自動車工業京都製作所の広大な敷地が続きます。そのさらに西、有栖川を渡って少し先、南側にあるのが長福寺です。丁度このあたりから道路が4車線道路から2車線に変わります。この地点までが狭義の四条通です。ただ、この通りは同時に京都市道186号嵐山祇園線でもあり、そのため現在ではその市道終点、嵐山・松尾あたりまで延長して四条通としているようです。狭義

の四条通の範囲でとらえると、京都外国語大学は、ほぼ西の終点附近に位置することになります。

四条通は京都市中心部を東西に貫く主要幹線道路のひとつです。これから見ていくのは延長7km部分で、普通の人なら徒歩でも2時間足らずで歩ききれる距離にすぎません。しかし、この道を東から西へとたどるルートには、京都市の近代化を物語る物的証拠がギッシリ詰まっているのです。そこで、西は外大周辺を終点として四条通を紙上散策、あるいは紙上タイムトラベルして見ようという趣向です。本学図書館所蔵の関連図書も逐次紹介して行きますよ。というわけで、物語の始まりを八坂神社から始めた次第。

次回も 祇園石段下あたりを“紙上うろうろ”する予定です。賀茂川を渡る日はいつになるのでしょうか。初回から心配になってきました。このペースではいつ外大にたどり着けるかわかりませんが、暫くのおつき合い、宜しくお願いします。ではまた、あなたの知らない京都、お見せします！

ひぐち じょう（教授・日本文化史）

本学図書館所蔵の本稿関連参考図書

- 日本アートセンター編『京都の大路小路』小学館、2003.7.
生田誠監修『明治の京都 手のひら逍遙』便利堂、2013.4.

図書館ホームページにも関連情報が掲載されています。ご参照下さい。